

# 地獄の戦場

# ビルマの日本軍慰安所

## ～文玉珠さんの足跡をたどって～

ビルマは19万人以上の戦死者を出した「地獄の戦場」として知られています。一方で、わずか3年半の日本軍占領の間に、わかっているだけでも60以上の地域に日本軍は慰安所を設置しました。

ビルマの女性たちの被害実態は名乗り出がないうえにわかっていません。しかし、朝鮮半島から連行され、ビルマの戦場を生き延びた文玉珠さんの証言からは、女性たちが強いられた過酷な実態が浮かび上がってきます。

### 2016年7月6日(水) - 2017年6月25日(日)

緬甸作戦経過要図

支那

印度

江

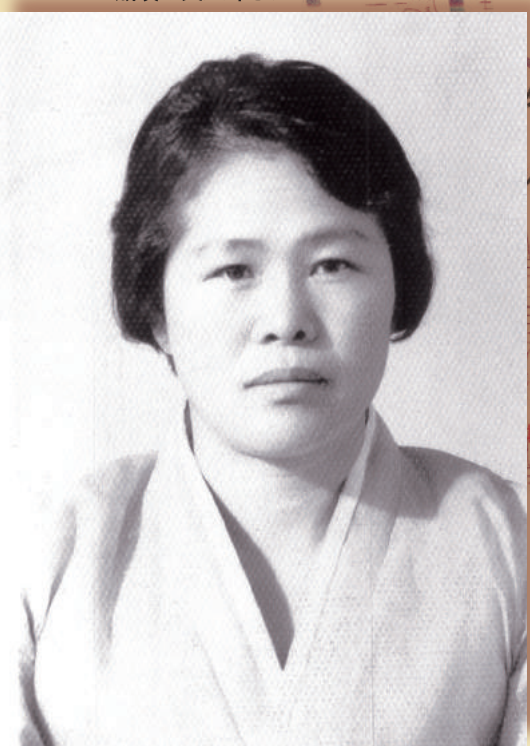
「…わたしは慰安所で十七歳になった。煙草を吸い、酒を飲むようになった。それでもしなければ男の相手など、できなかった。」

「…日本人には大和魂というものがあって、それはたいそうきつぱりとして潔いものだ、と聞いています。大和魂はどうしたのですか。」

文玉珠



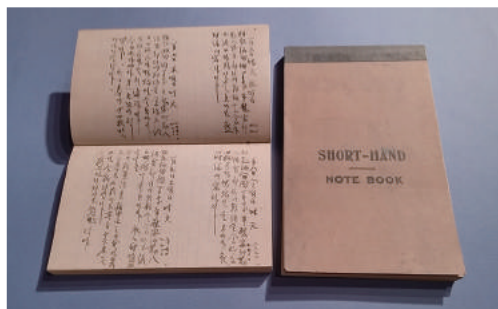
40歳頃の文玉珠さん



\*地名が入っているのが慰安所のあった場所

## 主な展示内容

- 日本軍のビルマ侵略と慰安所マップ  
～被害者証言、慰安所管理人の日記、元兵士の手記、公文書から
- 文玉珠さんの証言と足跡
- 「慰安婦」にされた朝鮮、台湾、中国、日本の女性たちの被害
- ビルマの女性たちと性暴力
- ビルマの戦後と日本

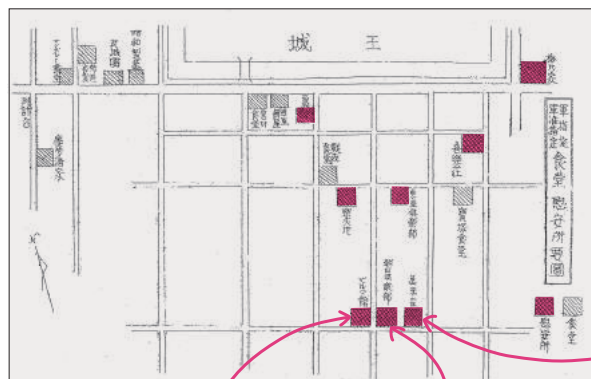
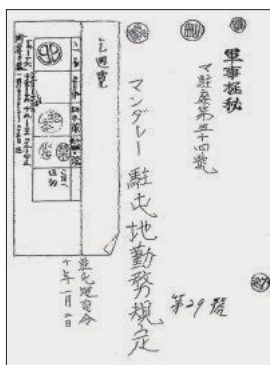


ビルマやシンガポールで慰安所の帳場係として働いていた朴さんの日記。2012年にその存在が明らかになり、文玉珠さんの証言を裏付ける記述も見つかった。この日記を所蔵している韓国の私立博物館「タイムカプセル」より提供された複製をwamで特別公開中。



ビルマの日本軍慰安所マップ。被害者や現地住民の証言、元兵士の手記、公文書などから60以上の地域に慰安所があったことが明らかになっている。

大英帝国戦争博物館所蔵の「マンガレー駐屯地勤務規定」（マンガレー駐屯地司令部／1945年1月2日制定）には、慰安所利用規定とともに、軍指定・軍准指定の慰安所に入れられた女性の国籍や定休日を示す表と、慰安所や食堂の位置が入った地図が含まれている。このうち、「朝日倶楽部」「萬来家」「ビルマ館」の慰安所跡が、森川万智子さんの調査で確認された。（写真：森川万智子）



「萬来家」  
(広東人女性／定休日は毎月11・26日)



「ビルマ館」  
(ビルマ人女性／定休日は毎月13・28日)



「朝日倶楽部」  
(朝鮮人女性／定休日は毎月5・20日)

＊（ ）内の内容は公文書から



「慰安婦」にされた朝鮮人の女性。  
右端の妊娠している女性は朴永心さん（1944年9月、拉孟）  
所蔵：米国国立公文書館



「慰安婦」にされた日本人の女性。  
「フタバ」と呼ばれた女性と思われる（1944年9月、拉孟）  
所蔵：米国国立公文書館



「慰安婦」にされた中国人の少女  
(1945年8月、ラングーン)  
©IWM(SE4523)

国名について：1989年、ビルマの軍事政権は国名を「ミャンマー」に変えましたが、本展示では慰安所がつくられた当時の呼称である「ビルマ」を使っています。  
表面の地図：『緬甸作戦経過要図』（1942年、陸軍省印刷、国立国会図書館所蔵）に慰安所のあった場所を示す加工を施しています。

## 会員になりませんか？

- 友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次おしらせします。  
維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「わたしの戦争と平和人権基金」係

**wam**  
アクティブ・ミュージアム  
わたしの戦争と平和資料館  
women's active museum on war and peace

開館時間：水～日 13:00～18:00

休館日：月・火・祝日・年末年始

※団体の祝日・時間外のご来館はご相談ください。  
※展示入れ替え期間は休館となります。

入館料：18歳以上 500円  
18歳未満 300円  
小学生以下 無料

※障がいのある方の付き添いは無料です。

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOEビル2F 〒169-0051  
T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E:wam@wam-peace.org  
URL:www.wam-peace.org Twitter:@wam\_peace

